

## 【84】川の鉄橋が川を渡らない！

愛知県の豊橋市と長野県の諏訪湖の近くの辰野町を結ぶ延長200kmの日本一長いJRのローカル線があります。(ローカル線とは“本線”ではないという意味です。)

豊橋駅から電車に乗ると、発車後2時間くらいで天竜川の峡谷地帯に入り、支川の水窪川(みさくぼがわ)に沿って峡谷の左岸側の山腹斜面を北上しているときに異変が生じます。電車が進行方向左側の谷川の方へ曲がって鉄橋にさしかかっていくのですが、鉄橋が川に直角ではなく斜めなのです。そして対岸に達したかと思ったら、その直前に何と鉄橋はカーブを画いて右へすなわち元の左岸の方へ戻ってゆき、山腹にたどりつくとなんとも無かったかのように先ほどと同じように山腹斜面を北上してゆきます。

鉄橋は対岸に渡らないのです。長さ300m、時間にして20秒くらいのことなのであらかじめ承知していないと気づきません。要はこの鉄橋は電車の線路を対岸へ渡すものではなく、線路の進行方向に何か障害物があって、それを避けるためといっても急斜面のこと、スペースが無いので谷川の上へ逃げたという感じなのです。

調べてみると、鉄道建設時に線路の正面に張り出している山稜を短いトンネルでぬいたのですが、地質が非常に悪く、せっかく完成したトンネルがつぶれたり動いたりする恐れがあったのでこれを放棄し、バイパス線路を谷川の上に造ったということのようです。この奇観は鉄道マニアの間では有名なのですが、河川屋を含め一般の人にはあまり知られていないと思うので紹介させてもらいました。

それにしても、現在だったら河川管理者が認めない施設だと思いますが、そもそも峡谷地帯で、しかも戦前のこと、長野県当局も鉄道の重要性にかんがみ、うるさいことを言わなかったのでしょう。

(注) 鉄橋の所在地は浜松市天竜区で、飯田線の城西駅と向市場駅との間